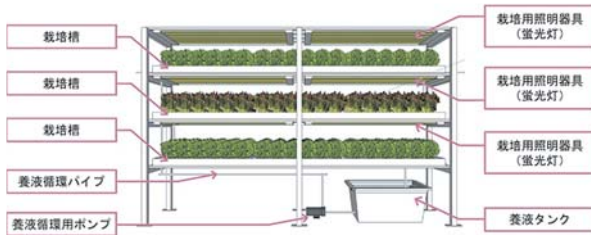


安全・安心な野菜を簡単に栽培できる植物工場ユニットを発売

大和ハウス工業株式会社 大阪府大阪市

大和ハウス工業株式会社（本社・大阪市）は、今年4月、コンテナのような建物内で葉菜類を中心に野菜を水耕栽培できる植物工場ユニット『agri-cube（アグリキューブ）』を発売した。1955年に「建築の工業化」を企業理念に創業した同社が「農業の工業化」に本格的に取り組む第一弾商品で、住宅メーカーが植物工場ユニットを販売するのは今回が初めて。

閉鎖空間のため外部から汚染される懸念が少なく、安定した品質の新鮮な野菜を簡単に生産することができるため、まずは“食の安全・安心”へのニーズが高い外食産業向けを中心に発売後1年間で1,000棟の販売を目指す。将来的にはホテル、老人保健施設、給食センター、学校などへも展開を図り、分譲マンション、コンビニエンスストア等でも利用できる小規模サイズの植物工場も開発、販売していく予定だ。



栽培室内部の様子（左上）、設置風景（右上）
栽培棚の配置イメージ図（下）

栽培棚、エアコン、全熱交換機（換気システム）、蛍光灯照明などの内部設備機器をパッケージ化し、工場ですべて事前に組み立てることにより最短1日※1で設置可能。床面積は10㎡以下と駐車場1台分のスペースがあれば設置できるコンパクトさのため、通常は建築確認申請手続きが不要※2。4トントラックの荷台にちょうど乗るサイズで輸送

の簡便さにも配慮している。

※1：設置場所の状況により異なる。また電気、給排水、基礎工事等は除く。※2：防火地域・準防火地域外において増築・改築する場合。



奈良市左京の同社総合技術研究所内に設置された「agri-cube E」。デザイン性を重視した外壁パネルはオーダーで塗装でき、企業PR用等にも活用可能。

葉菜類（レタス、ミズナ等）、ハーブ類（パセリ、ルッコラ等）、中国野菜（チンゲンサイ等）を中心に23種類の野菜を栽培でき、リーフレタスなら年間約1万株収穫可能。市販の種子や水耕栽培用肥料をそのまま利用し、栽培方法も一般の水耕栽培と同じで特殊技術は不要だ。

本体価格は標準タイプの「agri-cube S」が550万円、蛍光灯を手動で上下に動かせ外観デザインにもこだわった高級タイプの「agri-cube E」が850万円で、電気代や肥料代等のランニングコストは年間約35万円程度となっている。

今回の発売を機に同社では、より積極的に「農業の工業化」を推進し、農業分野の商品開発や事業活動を将来の大和ハウスグループ全体の基幹事業の一つに育て、日本の食料自給率の向上や農業

振興に貢献していく考えだという。

（吉村謙一）



大和ハウス工業株式会社

〒530-8241
大阪府大阪市北区梅田3-3-5
TEL：06-6346-2111
FAX：06-6342-1399
URL：http://www.daiwahouse.co.jp